

平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	「思わずやってみたくなる」異文化理解教育のための教材開発		
プロジェクト期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日		
申請代表者 (所属講座等)	船越美穂 (幼児教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	江頭理江 (国際共生教育講座) 中島亨 (英語教育講座) 石上洋明(九州大学テクニカルスタッフ) ベルガー有希子(ミュンヘン学校局) チャールズ・マルヴィッツ (英語教員)
取組方法・取組実績の概要	<p>異文化理解教育が、学び手である子どもたちにとって興味深く楽しいものであるべきであるという理念のもと、子供たちが強制されてではなく自発的に文字通り「思わずやってみたくなる」ほど楽しい上質な教材開発・作成を目指して本プロジェクトは取組みを行った。本年はプロジェクト2年目であり、これまでの資料収集を経て、幼児と小学生にとってどのような教材であれば「楽しく」学べるのかについての分析を経て、子どもが「楽しく」学べる教材作成を行った。今回作成した教材は、聴くのみ、見るのみというタイプの教材ではなく、聴くことと見ること、さらにいっしょに取り組むことを含んだ教材であり、その教材に触れたのち、次には実際に子どもが「やってみたくなる」という意識を引き起こすタイプの教材である。具体的な教材ビデオは、クマのパペットと日本人、外国人が「外国人に初めて出会う」「料理を作る」「畑仕事をする」といった場面に応じて、英語でやりとりをしながら日本語話者であるクマのパペットが「外国語が通じる喜び」を感じて異文化理解が深まるという内容となっている</p>		
研究成果の概要	<p>子どもが楽しんで取り組むことのできる異文化理解教材については、まずそれらがどのようなものであるかの分析にかなりの時間と手間を要した。プロジェクトメンバー相互で議論を重ね、子どもが見て聴いてやってみたくなるというタイプのビデオ教材を目指した。</p> <p>次ページ以降に詳細を記すが、英語のネイティブスピーカーが日本語話者であるクマのパペットと初めて出会い、畑仕事をし、料理をともに作るという場面の中で、英語でやり取りをしながら異文化に触れる体験を、子どもにまずはビデオを通して疑似体験させ、次回は子供自から、ビデオの中で見聞きしたことばを思わず使ってみながら、実際にやってみたくなるという取り組みへとつなげることを目指したビデオ教材を作成した。なにより、子どもが外国語を使ってみたくなるという思いを自然に引き起こさせるパペットの役割が大きかったため、パペットのキャラクター作成については、キャラクターの特徴決定から実際の制作にいたるまで、かなりの時間を要した。</p> <p>日本人、外国人、日本語話者であるクマのパペット、三者がおもに英語でやりとりしながら、いくつかの場면을展開するビデオを制作したわけだが、ここで目指していることは必ずしも英語の発音がネイティブであることや英語がペラペラになることではなく、日本語しか話せないクマのパペットが、日本人と外国人の英語のやりとりから「外国語が通じる喜び」を感じ、実際に外国人と話してみることによって自ら「外国語が通じる喜び」を感じることで異文化理解への一助とするものである。</p> <p>ひと対ひとで外国語を用いやり取りを行うタイプの異文化理解教材については、25年度・26年度前期に開講している「小学校英語実践」(木3、中島、江頭担当)の中で、学生とともに試作している。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (国内・国外) : <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input checked="" type="checkbox"/> その他 : 実際に学校・幼稚園で使用

	()		
--	-----	--	--